

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 6年 3月 1日

事業所名 かたつむりクラブ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	3	1	部屋は狭いが、経済的理由によりこれ以上の場所を使えないので、公園へ行くなどして工夫している。 メンバー（動きや体の大きさ）によっても印象が異なるので何とも言えない。 部屋はそんなに広くはないが外にもたくさん出ているため、閉塞感は解消できていると思う。
	②	職員の配置数は適切である	13	0	0	安全面や発達保障の意味でも必要と考える人数を配置するようにしている。 目が届くよう配置されていると思う。 子どもの発達を支援する意味では適切だが、黒字経営のためにはやや多い。 利用児とほぼ1対1で配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	8	1	現在は車イスや歩行困難な利用者がいないが、今後は考えていこうと思う。 外の階段前の段差。 積極的にしているとは言えないが、車イスの利用者がいる時などは配慮を工夫している。都度、利用児に合った環境を整えるよう工夫している。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	9	4	0	PDCAサイクルとして行っており、個別支援計画をスタッフの目の届く場所に置いたり、話し合ったりして今のその子に大切な支援を都度考えている。都度、振り返っている。 自分が把握できていないのかも。 連絡帳（一日の活動）記録。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	1	0	アンケートだけでなく、保護者の声も直接取り入れるようにしている。 アンケート評価表としてではなく、例えば行事の感想を連絡帳に書いてもらったり、直接意見を聞いたりして保護者の意見も取り入れながら、活動や行事を行っている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	1	1	保護者には配布し、ホームページにも公開している。 ホームページに載せる。 そもそも、ちゃんとしたホームページがあるようでないような...
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	4	1	区の監査がそれにあたるのか？わからない。 ワンマン運営にならないよう、相談体制をとっている。閉鎖的にならないようにしている。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	0	研修参加後も、共有できるように配慮されている。 研修会のチラシを掲示したり、参加費を補助したりして参加を呼びかけている。内部学習会も実施。 定期的に行っていて勉強になる。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	13	0	0	年に2回、面談を行い見直しをしている。面談以外にも子どもの送迎時に話をし、子ども理解と支援につなげている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	3	1	話し合いを大事にしている。指導員が対応していると思う。子どもを数値的に見ていないのでわかりません。(使っていません。)
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	1	0	活動は決まっています、その中で子どもに合った活動(あそび)ができるよう、都度話し合いをしている。指導員会議で話し合っている。相談や提案をし合える環境。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	3	0	指導員会議で話し合っている。毎日違うプログラムを立てて活動している。外遊びの他、クッキング、お買い物など取り入れている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	11	2	0	公共交通機関を利用する、たくさん歩くなど休日、長期休暇にしかできないことをするようにしている。指導員会議で話し合っている。職員で会議をして利用者が楽しく過ごせるように設定している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13	0	0	集団の中に長時間いられない時は個別で外へ行ったり、本人の行きたい所、やりたい事を尊重しながら活動を行っている。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	10	3	0	毎日ではできていないが、ボードに今日の予定を書き、利用者が来て挨拶の時にみんなで確認をしている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13	0	0	ノートに記録している。職員、スタッフも含めて利用者の様子を書きながら話し合う時間を作っている。活動記録を記入する際に活発な意見交換がおこなわれている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	0	活動記録をつけている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	13	0	0	相談支援事業所と話では子ども理解等の連携をとっている。指導員が行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	11	2	0	遊びの中でできている。把握が不十分だと感じている。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	1	1	指導員が行っていると思う。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	13	0	0	各所と連絡を取り合い、トラブルが起きたときに早く対応するようにしている。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	②②	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	8	2	今は対象者がいないが、必要になった場合はやると思う。指導員が行っていると思う。今、利用児がいない。
	②③	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	4	1	やった方がよいと感じているが、時間も人もいない中で難しい。幼稚園のみなどの場合があまりない。わかばの家の場合は連絡を取り合っている。
	②④	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9	3	1	小学生のみが通所しているので、中高生対象の放課後デイへ移行する時には情報提供している。
	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	5	0	把握していない。連絡はとりあっている。(子どもの状況把握程度)
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	10	3	0	公園で一緒に遊んでいる。全体での利用は無いが、個別で児童館に行き交流している。児童館や公園、電車やバスなど様々な場面で交流できている。公園で遊ぶ機会が多いので、一般児と一緒に遊ぶこともある。
	②⑦	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	8	4	1	放課後デイのネットワーク会議には参加しているが自立支援協議会に参加しているかはわからない。研修等で知り、あることは知っているがホームページで確認してもわかりづらい。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	0	0	お迎えに来る保護者にその日の子どもの様子を伝え、話をする時に子どもについて共通理解ができている。毎日の迎え時に話したり、連絡帳で伝えたり、保護者会を開いたりよくやっていると思う。毎回、連絡帳による活動の様子や報告、担当者からの引継ぎを行っている。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	1	5	画一的なペアレントトレーニングではなく、個や状況に応じた助言を行っている。指導員が保護者への支援も行っている。在籍中の保護者でペアトレが必要な人はいないと考えている。
	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	0	0	丁寧に行っている方だと思う。複雑なのでできるだけ丁寧な心がけるようにしている。
③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	0	0	お迎えで会える保護者とは会って話している。会えない方には連絡帳で伝える、面談の時に話している。話をたくさん聞き、一緒にどうしたら良いかを考えている。(子どもにとっても、保護者にとっても良い方向に向かうように)	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点
保護者への説明責任等	③②	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	13	0	0	父母会がある。保護者会も定期的に行っている。また、親子行事なども行い、交流の場を設けている。 父母会の活動は積極的に参加し、支援している。保護者会、親子行事を年に数回開催し、家族、きょうだい同士の交流ができるようにしている。 保護者会のサポートを行っている。
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	13	0	0	指導員が対応している。 苦情等があった場合は、相手の話をよく聞くようにしている。 話し合いをしっかりとっている。(時には場を設けることもある。)
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	0	0	毎月のおたよりや研修報告、スタッフ学習会の報告など頻繁に出している。 毎月発行している。行事等のおたよりの配布を都度している。 活動内容のよくわかるおたよりが発行される。
	③⑤	個人情報に十分注意している	12	1	0	基本的な配慮は行っている。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	0	祝日開所などの前日は一斉メール等で周知するなどの情報伝達の配慮をしている。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	13	0	0	バザーを行っている。 買い物に出かけてお店の方と交流したり、バザーを開いて地域住民と交流している。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11	2	0	貼ってあるが周知できているかは微妙。学習会で話すことはある。 プリントを配布し、室内に掲示。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	0	0	学期ごとに行っている。地震、火事、津波、不審者など。 年度で2回避難訓練をしている。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	1	年度の初めに職員のミーティングを行い確認をしている。 学習会でとりあげた。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	12	1	0	危ない場面での拘束があった場合などは、保護者にも説明するようにしている。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	1	0	把握し、対応している。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	0	0	ヒヤリハットがあった時は、話し合いをしっかりとる。 職員が見られるようにファイルしているし話を共有している。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点
--	--------	----	---------------	-----	---------

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価

課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
基準は満たしているがもっと広い方が理想。物を適切に管理し、スペースを狭くしないなど努力をしていく。
外活動では安全面のために10:8は必要としている。また、部屋の活動でも、安全面はもちろんのこと、子どもの要求に応えるためにも必要と考える。そのために赤字経営になってしまう問題は残っている。
部屋の構造上仕方ないがトイレの入り口に段差がある。車いすの子どもには不便さがある。声かけや必要な子どもには姿勢保持のための支援をしていく。
活動自体がうまくいかなかったとき、「どうして」「なぜ」は検討し、逆に予想と違って良かった点に関しても「どうして」「なぜ」を話し合うようにしている。目標が先にあるのではなく、子どもの姿や願いをきちんと捉えているかを問題にしたい。それにはスタッフ全員が関わっている。
保護者会、日々の伝え合いの中で出た意見は、指導員会議で話し合い、改善できるところは改善するようにしている。また、活動に取り入れられるようスタッフ間で話し合うようにしている。今後もこのスタンスで続けていく。
特に改善すべきことはなく、引き続きホームページへの公開と保護者への配布、スタッフへの回覧を行う。また、指導員、スタッフ間では改善点の共有を行っていく。
外部評価を受ける金銭的余裕がない。また、部屋が1つしかなく、閉室にすることが難しいという問題もある。これらをどう解決するかが課題となる。
研修は家庭事情により出られない人がいるときは、代わって出席している。指導員は非常によく参加している。アルバイトスタッフももっと気軽に参加できるようにしたい。 良い本を積極的に購入し、みんなで共有できるようにする。

課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
発達段階や障害特性による数値は参考にはするものの、子どもの育ちには家庭環境や学校を含む人的環境の影響が強いため、様々な観点から総合的に見て考える必要がある。ツールに当てはめるだけでは子どもの育ちが見えてこない。
指導員間で行い、スタッフにも理解してもらっている。
固定化した方が安心して子どもが参加できる場合もあると思う。子どもに合わせて、都度内容を考え進めている。同じようなことをしていても、その時の子どもの発想やスタッフの意見で楽しみ方が変わる。柔軟に考えるようにする。
その子にとっての課題(?)はどこにいても変わらないので、日々その子に必要な支援ができるようにする。
個別と集団を組み合わせることにとらわれず、その子に合った活動ができるような計画を立てられるようにする。
出勤回数が少ない人や久しぶりの人、つく子どもに大きな変化があった場合などはしっかり伝えるようにする。
記録の時間に振り返り、相談や質問をできるようにする。気になったことが話せるようにして、改善につなげられるようにする。
どういところが組み合わせられている支援かをスタッフに説明する。
今年度はなかったが、基本は管理者か児童発達管理責任者が行く。
コロナの影響もあって、学校公開等がまだできない状況が残念。年間行事表を早めに手に入れられるようにして、活動を組み立てるようにする。

課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
医療的ケア児の受け入れが施設の状況的に難しい現状がある。
基本的に保護者からの聞き取りからの情報に頼っている。情報が必要と思うときには積極的に関わっていくべきと思うが、偏ったものや誤った見方に左右されないことも大切にしたい。
情報交換は指導員会議、管理者会議のほか、気になった時に常に連絡できるようにしている。
研修のお知らせが来るが、午後の時間が多く、放デイの時間と重なるため出席することが難しい。
こちらからあえて設定するというよりは、自然な形で交流できることが望ましい。一般の子どもにぐいぐい来られることを苦手としている子どももいるので、無理に一緒にいることを良しとはしていない。機会は意識して作っていきたい。
自立支援協議会があることはわかっているが、その他にも会議が多く積極的に出ることができていない。まずは会議の内容を確認するところからやってみる。
家族支援としても大きな役割をしていると思う。 伝え合うことが大切なので、一方的にならないように聞く、話すのどちらも大切にしたい。
ペアレントトレーニングとしてはやっていない。子育ては枠にはめて行うものではないと思っている。保護者がいろいろな人と話して子育てをしていく、その支援をしたい。

課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
注意しているつもりだが、引き続き注意していきたい。
職員には周知しているが、保護者への周知は不完全。
大人がいかに冷静に行動できるかを意識しながら、訓練を行っている。保護者にも災害伝言ダイヤルの練習を年2回設け、参加してもらっている。
虐待そのものの研修も必要だが、子ども理解や障害理解を深めることも必要なので、そのための学習会や話し合いは続けていきたい。
虐待と通じるところがあるので、学習会で毎年確認するようにしている。
食べてはいけないものは指導員が把握しているが、スタッフ全員がわかるように務めていきたい。特に、おやつ作りなど調理の時には注意するようにしている。

課題や改善すべき点を踏まえた
改善内容又は改善目標

⑤です。